

南極観測データマネジメント検討 WG報告

南極、北極データの現状

藤田秀二
金尾政紀
(国立極地研究所)

- ・ 南極科学委員会(SCAR)や国際北極科学委員会(IASC)の動向を踏まえた、学術会議や極地研を含む我が国の対応(極地研の対応)
- ・ ワールドデータセンター(WDC)をはじめ、国際科学会議(ICSU)下のデータ関連の学術団体における組織改変など、国際極年に関連した動向について紹介
- ・

南極科学委員会(SCAR)対応

- **国際的要請** => SCAR下の南極データマネージメント委員会(SCADM)に呼応
- 関連各国に**極域データ**の提供元としてのナショナルデータセンター(NADC)の設立が求められてきた。
- 極地研内の**極域データセンター**(PDC)が、SCADMに対応するNADCとして活動しており、文字・数値データの所在に関する情報(メタデータ)を中心に国内外に公開してきた
(<http://scidbase.nipr.ac.jp/>; Kanao et al., 2008)。



日本語 English

メニュー

ホーム
極地データベースとは

メタデータ一覧

宇宙圏
気水圏
地図

生物圏
定常官庁

データポリシー
ユーザマニュアル
権限情報コモン
国際逐年データ管理
関連リンク
フォトギャラリー
コメント

ログイン

ログイン
新規登録
パスワード紹失

サイト内検索

検索
検索オプション

アクセスカウント

統計 : 7722

国 立 極 地 研 究 所
National Institute of Polar Research

大気地球物理研究会
情報システム研究機構
International Organization of Polar Research and Systems

新領域融合研究センター
Toward a primary Research Integration Center



新着データベース		
	2012-7-30 11:57	電波オーロラ観測記録
	2012-7-26 11:47	氷層フィによる海洋環境データ
	2012-7-25 15:24	観測基地周辺における海洋環境データ
	2012-7-25 15:23	南極海鮮類目録データ
	2012-7-25 14:33	観測基地周辺における動物プランクトンデータ
	2012-7-25 14:14	海洋植物プランクトン層データ 観測基地周辺における海水藻類データ
	2012-7-25 14:11	海洋植物プランクトン層データ
	2012-7-25 14:07	海洋植物クロロフィル量
	2012-7-25 13:53	海洋表面水クロロフィル量
	2012-7-11 13:32	南極観測船「しらせ」船上ビデオ観測による海水厚及び積雪深分布

最新ニュース		
■ ユーザマニュアル(第3版)を更新しました。	(2012-09-20 10:39:34)	
■ メタデータの観測領域をGoogle Mapへ表示しました	(2012-07-26 14:26:54)	
■ 第16回南極データマネジメント委員会が、2012年7月13-14日にポートランド(アメリカ)で開催	(2012-07-24 11:44:58)	
■ ワールドデータシステム(WDS)の海外ディレクター3名が2012年5月25日に来所しました	(2012-07-24 11:31:17)	
■ ユーザマニュアルを更新しました(第2版)	(2012-04-18 10:30:51)	
■ ICSU / Science and Information Technology委員会のMustapha Mokrane氏が来所	(2012-02-09 18:12:58)	
■ 2012年 地球観測科学融合大会(ユニオンセッションU-01: Global Data Activity)が開催	(2012-01-27 15:39:01)	
■ アクセスカウントを開始しました	(2011-12-02 16:51:29)	
■ 国際逐年データ管理のページが公開されました	(2011-11-21 12:07:17)	
■ 第15回南極データマネジメント委員会が開催	(2011-11-07 17:37:39)	

Copyright © National Institute of Polar Research



This work by
<http://polaris.nipr.ac.jp/~>
is licensed under a
Creative Commons Attribution 3.0
Unported License.
None expects that users will follow
the
Polar Information Commons:
Ethics and Norms of Data
Sharing.

Global Change Mater Directory(GCMD)

Antarctic Master Directory; AMD

Arctic Master Directory

IPY Master Directory

学術データの種類としては、定常官庁を含む南極域のモニタリング観測をはじめ、国際共同研究を含む様々なプロジェクト観測、また北極域のデータの一部が集積されている。PDCで公開しているメタデータの総数は、2011年11月段階で150件を超えており、

IPY合同委員会でのデータ管理

- ICSUとWMOによる国際極年合同委員会(IPY Joint Committee; IPY-JC) => IPY Data sub-committee (IPYデータに関する委員会)
- IPYデータ・情報サービス(IPY Data and Information Service; IPY-DIS)設立
<http://ipydis.org/> (2012年10月10日 renewal)

IPY Legacyの今後の取り組み

- 「データ管理体制の枠組み (Governance)」
- 「データの相互利用 (interoperability)」
- 「データの長期保管 (preservation)」
- IPY-JC Summary Report (Parsonsら、2011)

極域情報コモン(Polar Information Commons; PIC)

- ポスト国際極年において南北両極で取得されたデータの管理公開を運営するための、新たに提案された組織
- IPY-IPOを中心に設立準備がなされ、ISCU下の学際団体の一つである「科学技術データ委員会(CODATA)」が中心となり、サーバ管理作業に貢献している。しかしながら、SCAR、IASC、WMO、国際測地学・地球物理学連合(IUGG)等の他の学際団体も積極的に協力して運営
- 2010年6月に開催されたIPYオスロ大会では、PICの発起集会が盛大に行われた。

南極データ

- SCADMが主体となり「SCARのデータと情報に関するマネージメント戦略(Data and Information Management Strategy ; DIMS)」を作成し、その実行プラン(Implementation Plan ; IP 2009-2013; Finney, 2009)
 - 1)相互利用可能なリポジトリ(=“データ資源”を意味する)ネットワークの構築
 - 2)SCAR プロジェクトの成果の評価についての公開作業
 - 3)PICの設立と運用への協力体制の維持

北極データ

- 國際極年以前はSCARのような組織的な取り組みはあまり行われていなかった。
- IPYの各種プロジェクトデータの管理は、例えばIASC下の「持続的北極観測網(Sustaining Arctic Observing Networks; SAON)」等で議論されている。

World Data System; WDS

- IGYで設立された「ワールドデータセンター (WDC)」
- 2008年10月のICSU総会
- 「天文及び地球物理データ解析サービス連合 (FAGS)」とWDCを統合=>ワールドデータシステム(World Data System; WDS) を発足
- ICSUからの要請=>ポスト国際極年において CODATAと共に極域データの収集管理公開への連携姿勢を明確に表明